

いつもお世話になっております。

今月分の請求書を送付いたしますので、何卒ご査収の程よろしくお願い申し上げます。

いつもありがとうございます。

急激に冷え込んできた今日この頃です。みなさまはいかがお過ごしでしょうか。

先月のアメリカ旅行の話にも登場した「ズニ」の話を今月は書きたいと思います。ズニ族というと、インディアンジュエリーでとても有名な部族のひとつですので、ご存知の方も多いかもしれません。

私達がズニの居住区に着いたのは19時すぎ。集落には街灯もほとんどなく、あたりはもう真っ暗でした。村に1軒だけのB&B「Inn at Halona」に泊まり、翌朝には出発という束の間の滞在でしたが、特筆すべきは、村の女性が作ってくれた朝食。中でもブルーコーンパンケーキがシンプルで素朴ながら、とても美味しかったことです。あの朝食をまた食べに行きたいものです。

B&Bに隣接したスーパーには、日用品や食料品とならんで、ジュエリー製作用の工具や部品、ターコイズなどの原石を販売していました。多くの村民が、ジュエリー製作に関係した仕事をされているのだらうと思います。

ターコイズという誰もが鮮やかなブルーの石を想像すると思いますが、産地によって色や柄に様々な特徴があります。また、着色した物や、粉末を練り固めた物も多く、私の様な素人には見分けがつきませんが、容器に産地と処理済みかどうかを書いていましたので、スリーピングビューティという美しい名前の鉱山で採れた小さなターコイズをゲットしました。

ズニの工芸で有名な物のひとつに「フェティッシュ」もあります。フェティッシュとは、石や貝などを彫って動物や精霊の形にしたお守りで、それぞれの動物や精霊に意味があると考えられています。

今ではアートやお土産として売られていますが、元々は動物に似た形の石をみつけると、そこに特別な力が宿っていると考え、狩りや病気のお守りとしたそうです。あらゆるものにスピリットが宿っていると考えるインディアンと、八百万の神を祀る日本人の感覚とは似ている部分があるようです。

村の工芸品を販売する「Trading Post」と呼ばれるお店で、大量のフェティッシュを見ているうちに、自分も欲しくなってクマを2つ購入しました。このあとサンタフェに行って、更に2つクマをゲット。たまたま目が合ったというだけで、クマ好きというわけではないのですが、きっと今の私に必要なのはクマの叡智なのかもしれません。

フェティッシュには、口から心臓に向けて「ハートライン」と呼ばれる矢印が描かれていることがあります。これは生命力を表しているそうです。また、矢じりや宝石や羽根を背負っているものもあります。お宝だと思っていたのですが、これは動物たちの魔除けなのだそうです。



温度変化が激しくて身体もびっくりしています。

みなさま、暖かくして充分ご自愛くださいませ。



ターコイズの原石がゴロゴロ



サンタフェのギャラリーで、ショーケースの写真を撮らせて頂きました。フェティッシュ大集合！！



(上)大理石 Tony Laiwakete 作

(下)ターコイズ Mike Mahooty 作

(左)ドロマイト Andress Quandelacy 作